

国際化学肥料ニュース (2018年9月)

肥料業界の2018年9月動態

- * 南アジアのリン安市況が安値で推移している。9月1週目、インドが国際市場から CFR428 ドル/トンで 20 万トン DAP を契約した。そのうち 5 万トンが中国産、残りはヨルダン、サウジアラビア品である。インドが今年 4 月からすでに国際市場から 420 万トン DAP を購入した。また、パキスタンも通貨安の関係で、DAP の CFR 価格が 435 ドル/未満に限定される。

- * 9月に入って、尿素の国際価格が上昇し続けている。バングラデシュはすでに 2 回の尿素入札を行い、普通尿素と大粒尿素それぞれ 10 万トンを契約した。その最低応札価格は普通尿素では CFR365.87 ドル/トン、大粒尿素では 365.90 ドル/トンである。また、第 4 四半期に計 45 万トン尿素を購入する予定である。ヨーロッパでは大粒尿素のイギリスとアイルランド向けの価格が CFR340 ドル/トンに上がった。
尿素有の市況が上がったことで、8 月末から中国産尿素の輸出も回復したようである。8 月末から 9 月第 1 週までの 2 週間だけで計 10.5 万トン尿素の輸出を契約した。

- * インドからの消息によれば、Nagarjuna Fertilizer 社の 130 万トン尿素生産ラインの定修で、8 月国内尿素生産量が 201 万トン、前年同期より 9 万トン少ない。9 月 1 日現在の尿素在庫量が 46.1 万トン、港にある輸入尿素 47.6 万トンを加え、100 万トン未満で、近年来最小である。逆に 8 月の販売量が 208% 増の 303 万トンである。2018~2019 年度インドの尿素消費量が 3000 万トンを超える予測で、200 万トン以上が不足で、追加輸入が必要である。次回の尿素入札は 9 月末に行うだろうと推測される。

- * 9 月第 2 週に入って、りん安の国際市況が東と西半球の格差がさらに拡大している。インド通貨の下落で、NFL 社の DAP 購入価格が CFR425 ドル/トンに引き下げられ、政府に規制されている DAP の国内小売価格が引き上げされる可能性が高くなる。一方、アメリカと南米ではりん安の需要が高くなり、輸入価格も高止まりの状態である。モロッコの OCP 社は CFR455 ドル/トンでブラジルに 15 万トン MAP を輸出し、ロシアもアメリカに MAP を輸出した。ただし、アルゼンチンはインフレと外貨不足で、りん安の輸入を一時中断したようである。

- * 中国税関の速報によれば、8月の化学肥料輸出量が1.8%増の217.9万トン、金額が18.6%増の6.29億ドル。その内訳は尿素13万トン、DAP69万トン、NPK化成肥料4.7万トン。一方、8月の化学肥料輸入量が56.7万トン、金額1.73億ドル。その内訳は塩化加里40万トン、NPK化成肥料14万トン。

1~8月の中国化学肥料輸出量が14%減の1384万トン、合計金額が2.3%減の38.95億ドル。その内訳は尿素が71.6%減の94万トン、DAPが0.9%増の401万トン、NPK化成肥料が506%増の22.2万トン。1~8月の中国化学肥料輸入量が13.4%増の667万トン、合計金額が23.3%増の18.44億ドル。その内訳は塩化加里が5%増の515万トン、尿素が7260%増の19.3万トン、NPK化成肥料が35.8%増の108万トン。

- * 6ヶ月近いの交渉を経て、9月17日ベラルーシのBPC社は中国側と2018年度塩化加里輸入基本契約を締結したと発表した。契約価格はCFR290ドル/トンで、先月BPC社とインド側との2018~2019年度の塩化加里基本契約と同じ価格である。前年度のCFR230ドル/トンに比べ、60ドル/トンの値上げである。数量が未発表。慣例として、他の加里大手メーカーも逐次中国側と同じ価格で2018年度の塩化加里輸入基本契約を締結する。

- * 中東湾岸石油化工と化学品協会（GPCA）が発表した最新データによれば、2017年中東湾岸地域の化学肥料輸出量が5.3%増の2040万トンに達し、最高記録を更新した。中東湾岸地域は豊富な石油資源とリン鉱石資源をバックに化学肥料と化学品産業が急発展を遂げ、重要な化学肥料供給基地となっている。化学肥料生産能力が2018年に3890万トン、2025年に4700万トンになる見通しである。中東湾岸地域の化学肥料生産能力の順位はサウジアラビアが第1位で、シェア46%、カタールが第2位で、シェア25%、オマーンが第3位で、シェア12%。

ただし、気候の原因で、生産された化学肥料がほとんど輸出され、インド、パキスタンとアメリカが最大の輸出先である。

- * 尿素有の国際市況が好調の続きである。9月24日にバングラデシュが新たに小粒尿素10万トンと大粒尿素10万トンの国際入札を発表した。パキスタンのTCP社も9月14日に10万トン尿素有の国際入札、エチオピアも9月上旬に50万トン尿素有の国際入札を行う。10月中旬まで、尿素有の国際価格が高値を維持する見込みである。

- * 9月17日、中国側がベラルーシBPC社と2018年度（2018年10月~2019年6月）の塩化加里輸入基本契約を締結し、インドと同じ、CFR290ドル/トンにすることが確認されてから国際市場における塩化加里価格の値上がりが見られる。特にアジア地域では韓国、日本、フィリピンの塩化加里価格がCFR310ドル/トンに達し、東南アジア

も CFR285～305 ドルに上昇した。また、北西ヨーロッパでは 10 月納品の塩化加里には CFR285～290 ユーロ／トンのオファーもある。ブラジルでは粒状塩化加里の CFR 価格が 335～345 ドル／トンであるが、350 ドル／トンのオファーを受け入れる商社も出ている噂がある。

- * 9 月 27 日、インド MMTC 社が新たに尿素の国際入札を行うことを発表した。10 月 5 日締切、予定購買量が不定量であるが、アメリカからの圧力でイラン産尿素の応札が困難である噂がある。また、バングラデシュ BCIC 社も 9 月 24 日に再度尿素の国際入札を行い、10 月 8 日締切、購買数量が小粒尿素 5 万トン、大粒尿素 10 万トンと予定されている。

大手各社の営業業績

- * ロシアの Acron 社が上半期の業績を公表した。売上高が 5.3%増の 494.1 億ルーブル(約 8.4 億ドル)、税引き前利益が 157%増の 47.5 億ルーブル(約 8100 万ドル)、純利益が 76%増の 34.3 億ルーブル(約 5800 万ドル)。利益急増の理由は化学肥料輸出価格の高騰と生産コストの引き下げである。

肥料資源の探索と肥料プラント新規建設

- * ロシアの EuroChem 社が Kingisepp 市に建設中のアンモニア合成工場に工事の遅れが出て、予定された 2018 年第 4 四半期の完成が 2019 年第 1 四半期に延ばされた。当該工場のアンモニア生産能力が 100 万トンで、そのうちの 50 万トンを輸出に供する。

その他